

新しい農業の

確立をめざして



農政部長
農立農業大学校長
原田 富夫

部長に就任しましたのは昨年の七月ですが、本年四月開校した農業大学の校長を兼務しています。それまでは、総務部で主に内部管理の仕事が多かったわけですが、この一年間、農政を担当して、これからの農業の難しさをひしひしと感じています。

私は難しい時代であればあるほど、なお一層、農業者並びに農業団体等関係機関の方々や行政にたずさわることが一体となって、新しい農業に意欲をもって取り進む必要があると思います。

幸い、本県の場合は農業後継者も増加のきざしをみておりますし、これからの熊本農業を支えていく若者の養成はとくに大事でありますので力を入れているところであります。

本県農業の位置

本県の農業は、わが国の食料供給基地として重要な役割りを果しており、昭和五十二年の農業粗生産額は、三千四百五十一億円で全国第七位にあります。

品目別にみますと、全国一位には、すいか、露地メロン、甘夏みかん、い草等があり十位以内に十二品目、このうち五位以内のものが八品目もあります。

県の予算をみますと、昭和五十一年度予算総額に占める農政予算は一三%

(全国平均七・五%、九州一位)で、本県が、農業を基礎産業として力を入れていることがわかります。

また、食料供給基地というのは、食料を安定的に供給するということですから、本県の食料自給率を試算してみますと、総合自給率は一三六% (国は七〇%)で、特に自給率の高いものとしては、肉用牛(三二・五%)、果実(二三四%)、野菜(一八六%)等があり、本県の食料供給基地としての地位がいかに高いかわかります。

稲作転換問題

稲作転換については、本県は一万一千七百ヘクタールが示され、県としては、この措置について単なる「米減し」ということではなくて、今後、新しい農業を推進するための契機としたいと考えています。

そして本県農業の永続的な発展、農家生活の向上を図るため、長期的な視点に立って、地域の特性を生かした新しい農業を確立するため諸施策を行っていきたくと考えています。

当面の対策として、本年力をいれますのは、水田利用再編の推進と集団組織活動の育成強化、農業団体の営農活動促進、転作物の生産振興、生産基盤の整備、価格安定対策の充実、農家生活の

改善、技術開発の推進、米の消費拡大等の施策であり、これらを総合的に推進しています。

今後の方向づけ

二百カイリ問題にも関連して、国民の必要とする蛋白源を確保するという観点からも、畜産の振興には力をいれたいと考えています。

野菜、果樹等の中には、生産調整ないしは生産調整を必要とするような状況にあるものもあり、今後は品質の良いものを計画生産・計画出荷していくことが市場確保の増大の大きな条件になると考えております。

従って、野菜果樹等については、生産量を上げるといっても、生産のコストを引き下げながらも品質を高め、安定的な供給ができるように生産地の充実強化を図ることが必要だと思っております。

後継者の育成

今後の農業を考えてみた場合、国際化の嵐の中にまきこまれるのは必至と考えられ、一段と厳しさを増す状況にありますので、今後、本県農業をさらに発展させるためには、優れた後継者を育成確保することが必要です。本県の農業後継者育成の理念について申し上げますと、農業後継者は国民の食料を供給する、いわゆる国家的基幹産業の担い手であるという自覚と誇りをもち、また農村社会生活において人間尊重と地域の連帯感、あるいは、自己の生活活動、個人の役割等について明確な目標をもつ、そういう人間に育てていくことだと思っております。

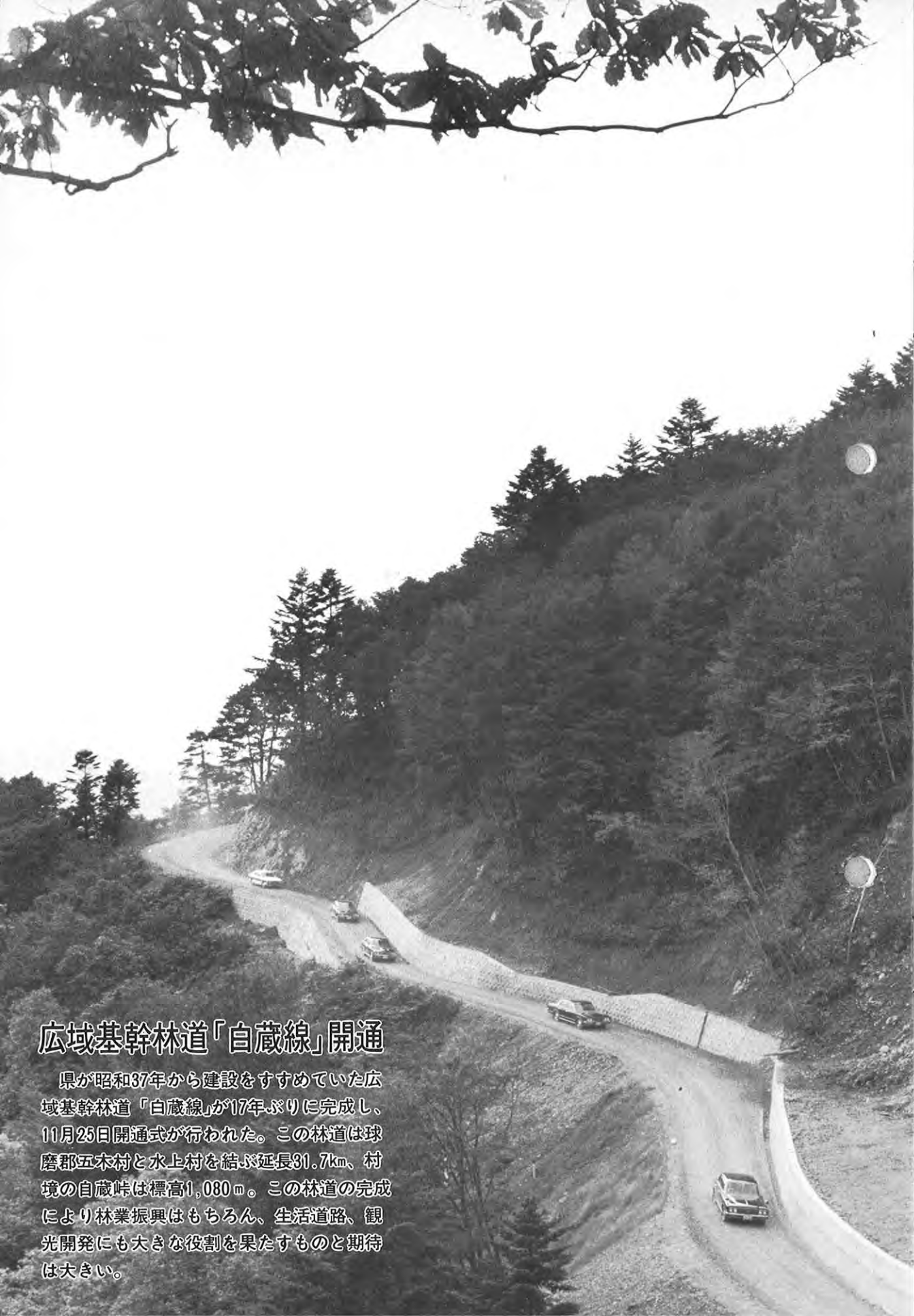
今後、この厳しい農業情勢に対処し地域全体が協力し合い、知恵を出し合っ地域農業の確立を図るためには、時代の変化に即応できる創造性をもった後継者の役割が極めて大きいと考えます。そういう観点から農業後継者の育成機関として農業大学校をはじめ、その付属機関として高等農業学園、草地高等研修所等を設置し、自営者の養成にあたりては、わけても、既に農業に従事している方に対しては技術、経営の専門研修、国内外への派遣研修青年団技術交歓等もやっています。

昭和四十年頃には中学、高校を卒業して農業にいたる人は二千六百人位あり、四十九年まで減少していましたがその後五十年からは減少に歯どめがかかり七百八十人位になっており曙光を見出した感じがします。

農政展望

私は、自分たちの食料は自分たちで生産するというのが基本だと思っております。特に本県は、第三次全国総合開発計画においても、総合的な食料供給基地として位置づけられているわけですが、本県は豊かな自然と農業資源に恵まれており、技術水準も全国的に高いものがあります。したがってこれらの要素を加味して、本県が食料自給率向上の原動力となることは十分可能だと考えております。

このため本県としては農業者をはじめ、市町村、農業団体機関の理解と協力をえて農業生産体制の整備、農村環境の総合整備を図り新しい農業を確立することにいたしております。



広域基幹林道「白蔵線」開通

県が昭和37年から建設をすすめていた広域基幹林道「白蔵線」が17年ぶりに完成し、11月25日開通式が行われた。この林道は球磨郡五木村と水上村を結ぶ延長31.7km、村境の自蔵峠は標高1,080m。この林道の完成により林業振興はもちろん、生活道路、観光開発にも大きな役割を果たすものと期待は大きい。